

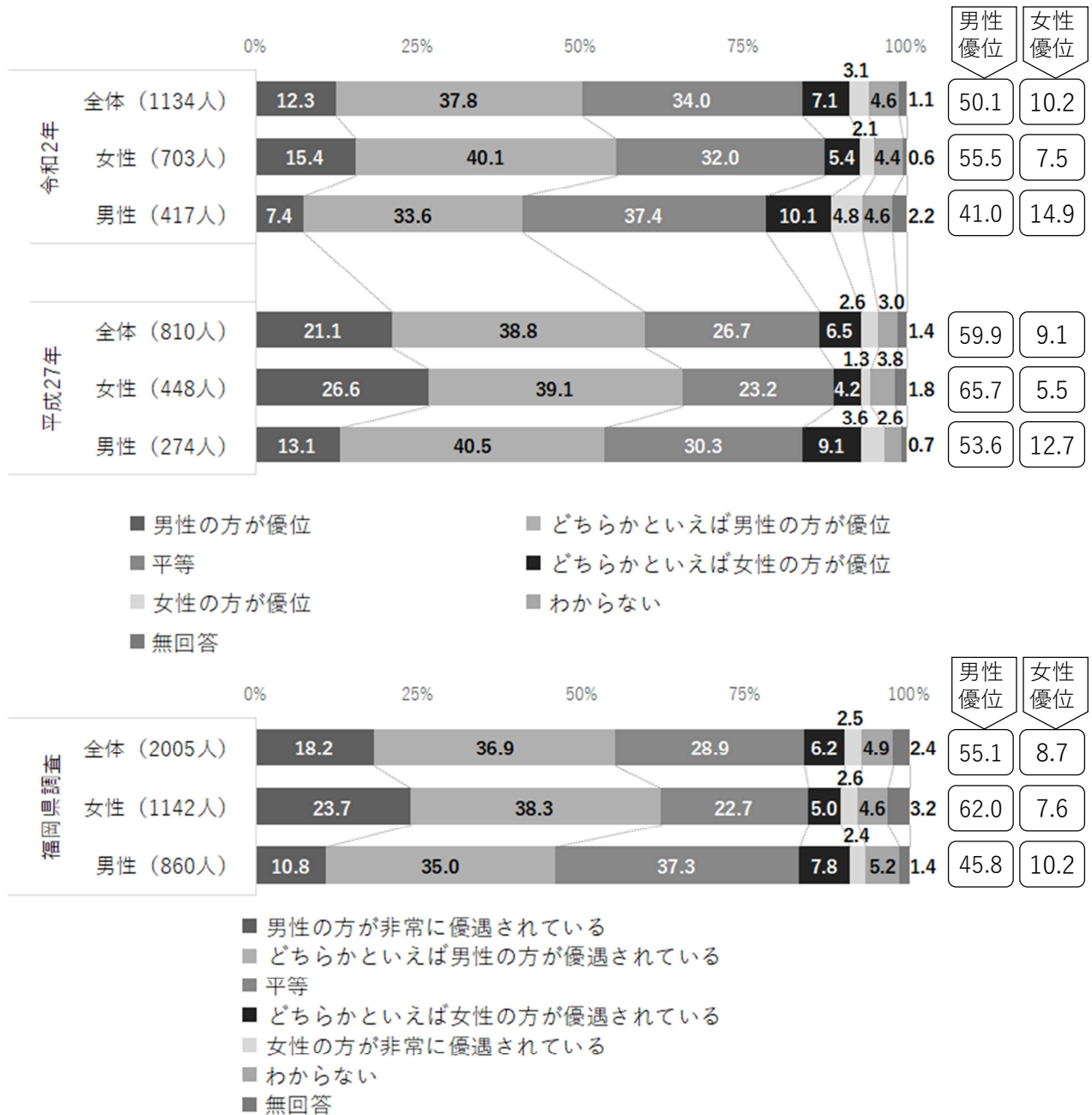
III 調査結果

1 男女の地位の平等感について

問1 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)～(キ)のそれぞれで、あなたの考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

(ア) 家庭生活上で

図II-1-1 家庭生活における男女の地位の平等感[全体、性別] (前回調査・県調査比較)



さまざまな分野における男女の地位の平等感をたずねたところ、「家庭生活」では、「どちらかといえば男性の方が優位」が37.8%と最も高く、「男性の方が優位」と合わせた『男性優位』は

50.1%と、約半数を占める。一方で、「女性の方が優位」「どちらかといえば女性の方が優位」を合わせた『女性優位』は10.2%となった。「平等」は34.0%である。

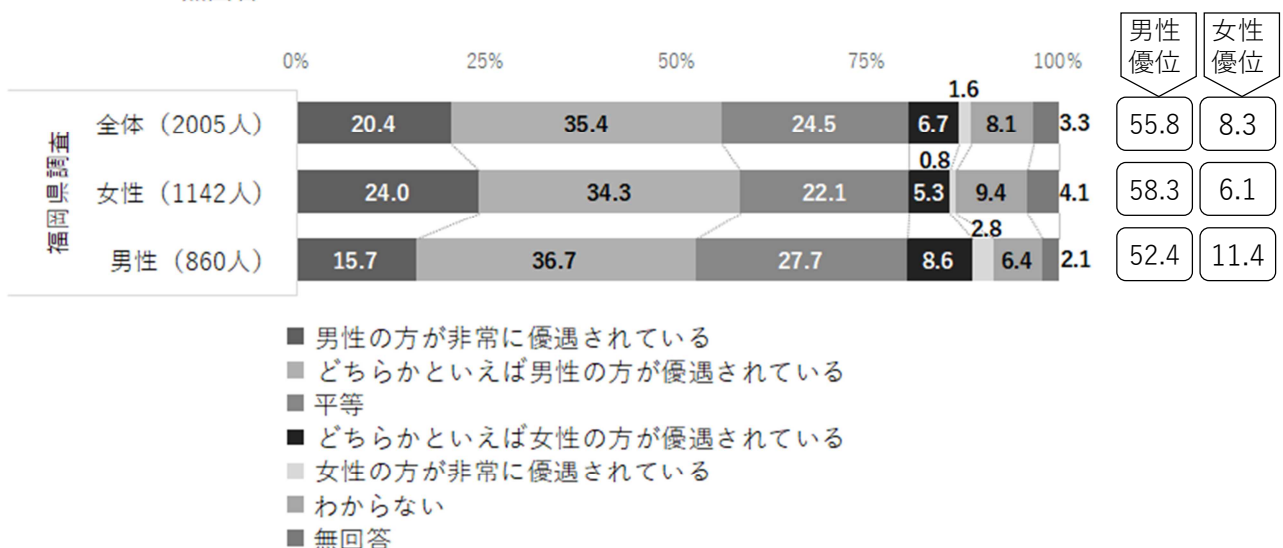
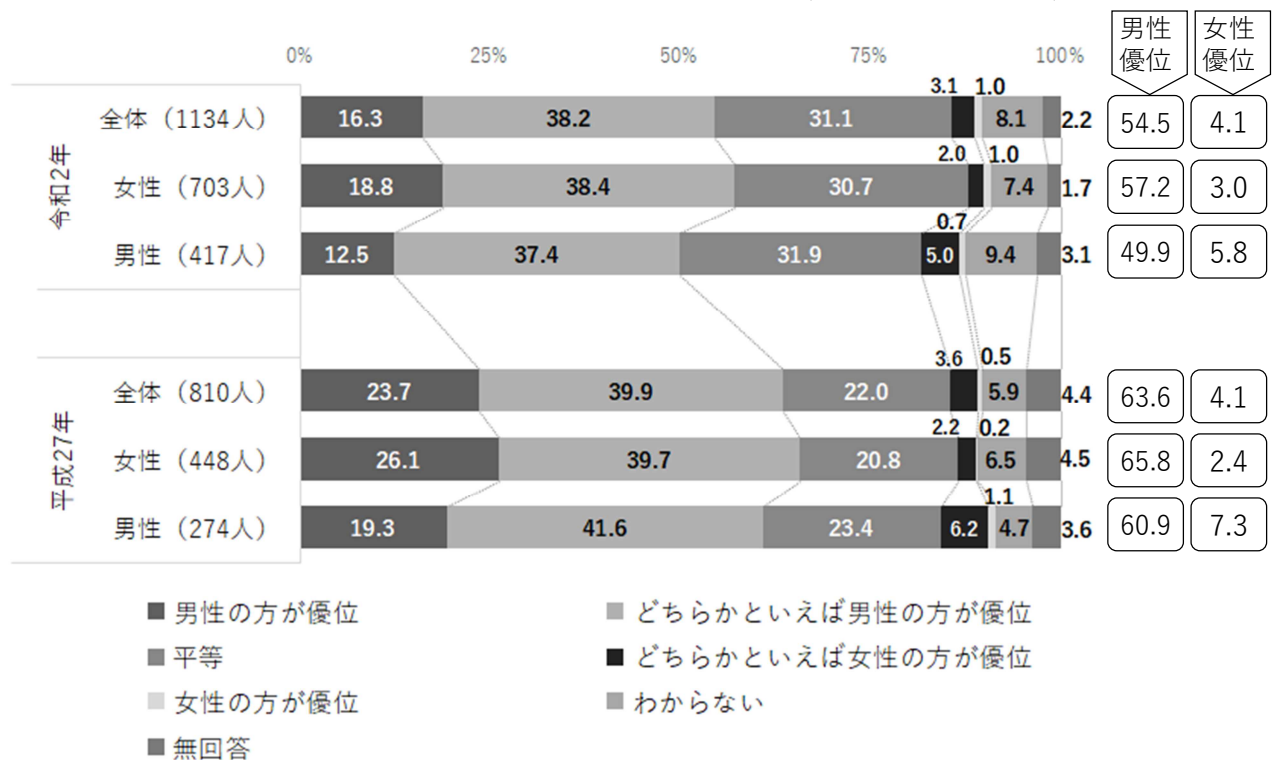
性別にみると、『男性優位』が女性は55.5%であるのに対し、男性は41.0%と14.5ポイントの開きがある。

前回調査と比較すると、『男性優位』が9.8ポイント減少し、そのぶん『平等』が7.3ポイント増加している。

福岡県調査と比較すると、『男性優位』が八女市は50.1%であるのに対し福岡県は55.1%、「平等」が八女市は34.0%であるのに対し福岡県は28.9%であり、福岡県に比べて平等感が高い結果となっている。

(イ) 職場で

図II-1-2 職場における男女の地位の平等感[全体、性別] (前回調査・県調査比較)



「職場」では、「どちらかといえば男性の方が優位」が38.2%と最も高く、「家庭生活」と同様に『男性優位』が過半数を占める。

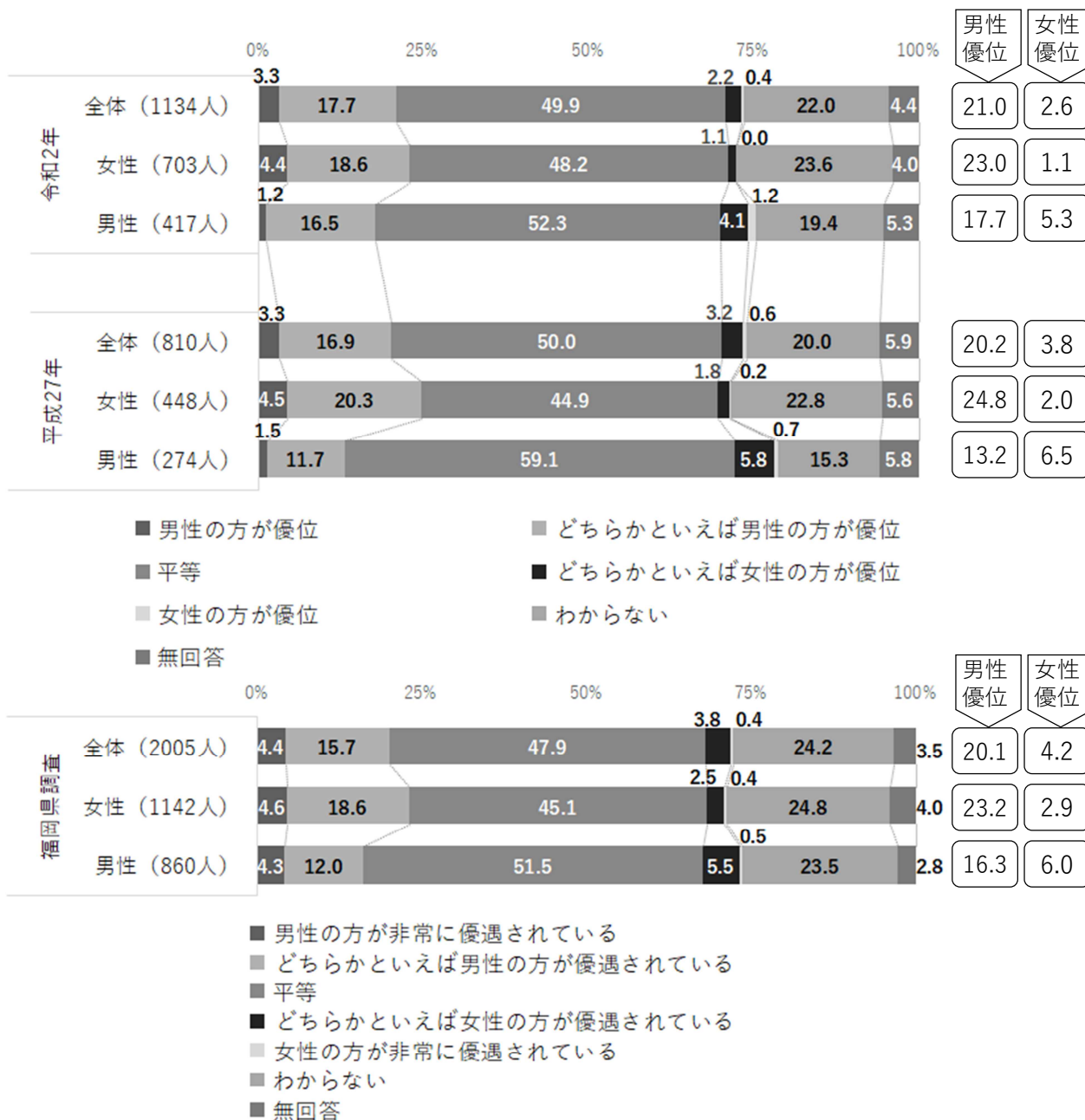
性別にみると、『男性優位』が女性は57.2%であるのに対し男性は49.9%であり、7.3ポイントの開きがある。

前回調査と比較すると、『男性優位』が9.1ポイント減少した一方、「平等」が9.1ポイント増加しており、平等感が強まっている。

福岡県調査と比較すると、『男性優位』はほとんど差がないが、「平等」については八女市の方が6.6ポイント高く、『女性優位』は八女市の方が4.2ポイント低くなっている。

(ウ) 学校教育の場で

図 II - 1 - 3 学校教育の場における男女の地位の平等感[全体、性別] (前回調査・県調査比較)



「学校教育」では、「平等」が49.9%と最も高く、次いで「わからない」が22.0%だった。他の分野に比べて「わからない」の割合が高く、実態が把握しにくい面がある。

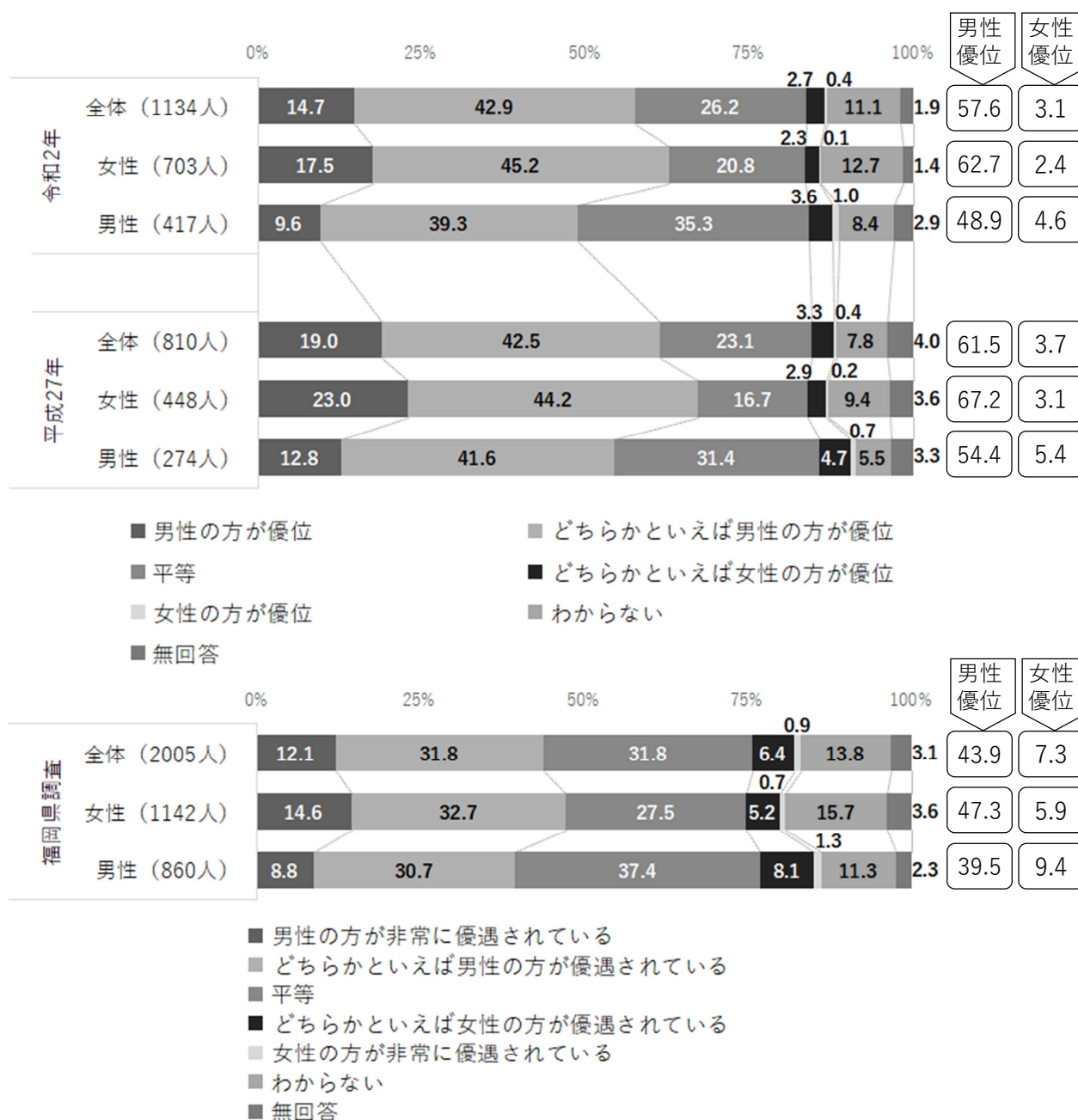
性別にみると、『男性優位』が女性は23.0%であるのに対し男性は17.7%で、5.3ポイントの開きがある。一方で「平等」は4.1ポイント、『女性優位』は4.2ポイント、いずれも男性の方が高くなっている。

前回調査と比較すると、全体では大きな変化はないが、男性では『男性優位』が4.5ポイント増加し、「平等」が6.8ポイント減少している。

福岡県調査との比較では、大きな違いは見られなかった。

(エ) 地域活動・社会活動で

図Ⅱ-1-4 地域活動・社会活動における男女の地位の平等感[全体、性別] (前回調査・県調査比較)



「地域活動・社会活動」では、「どちらかといえば男性の方が優位」が42.9%と最も高く、次いで「平等」が26.2%となっている。『男性優位』は57.6%を占めている。

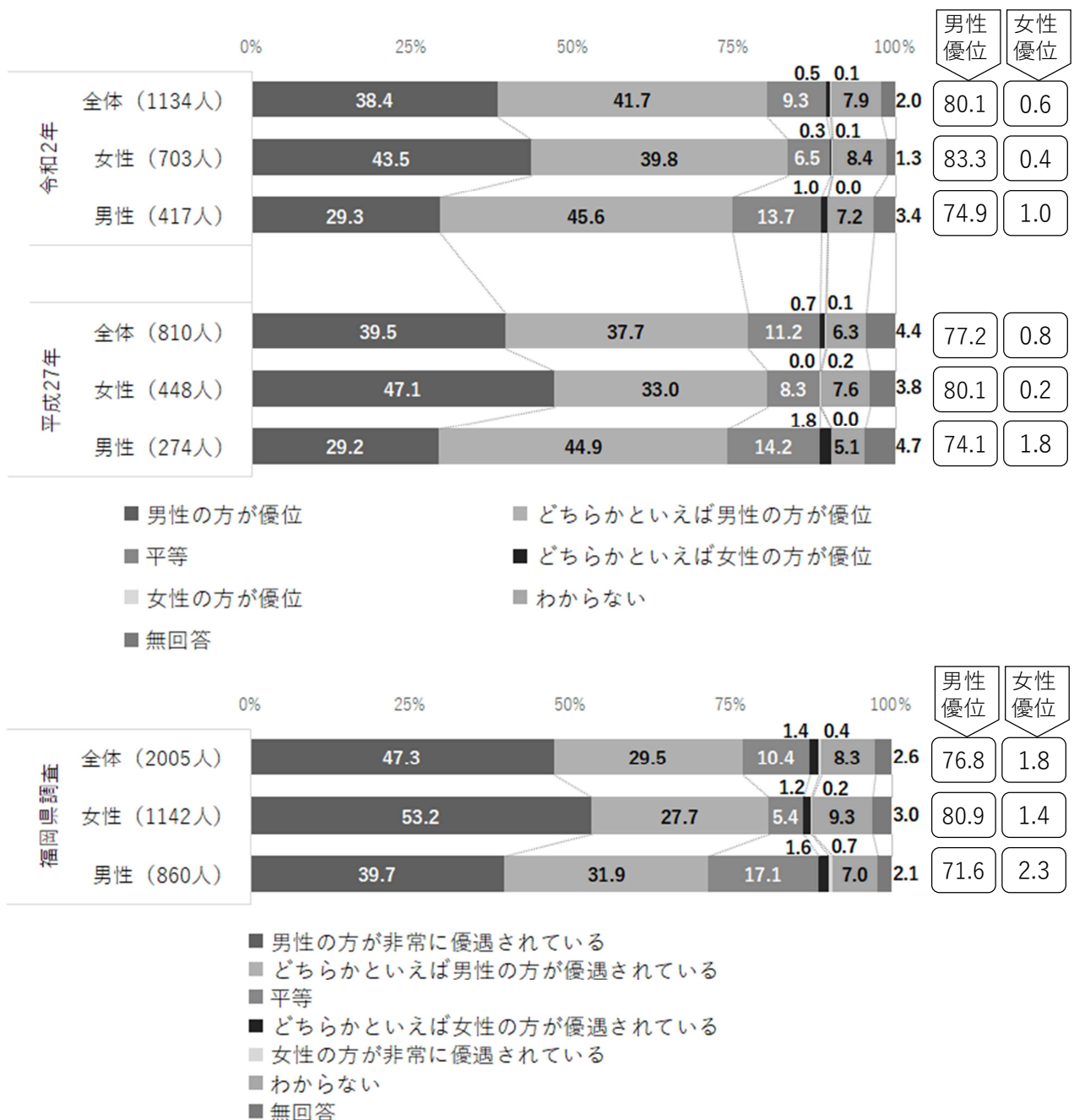
性別にみると、『男性優位』が女性は62.7%と男性よりも13.8ポイント高く、一方で「平等」は男性が14.5ポイント高くなっており、男女の認識の違いが大きい分野である。

前回調査と比較すると、男女とも『男性優位』が減少し、「平等」が増加している。

福岡県調査と比較すると、『男性優位』は八女市の方が13.7ポイント高いのに対して、「平等」は福岡県の方が高く、八女市では福岡県に比べて不平等感が強くなっている。

(オ) 政治の場で

図II-1-5 政治の場における男女の地位の平等感[全体、性別] (前回調査・県調査比較)



「政治の場」では、「どちらかといえば男性の方が優位」が41.7%と最も高く、『男性優位』が

8割を占める。「平等」は9.3%にとどまり、不平等感がとくに強い分野である。

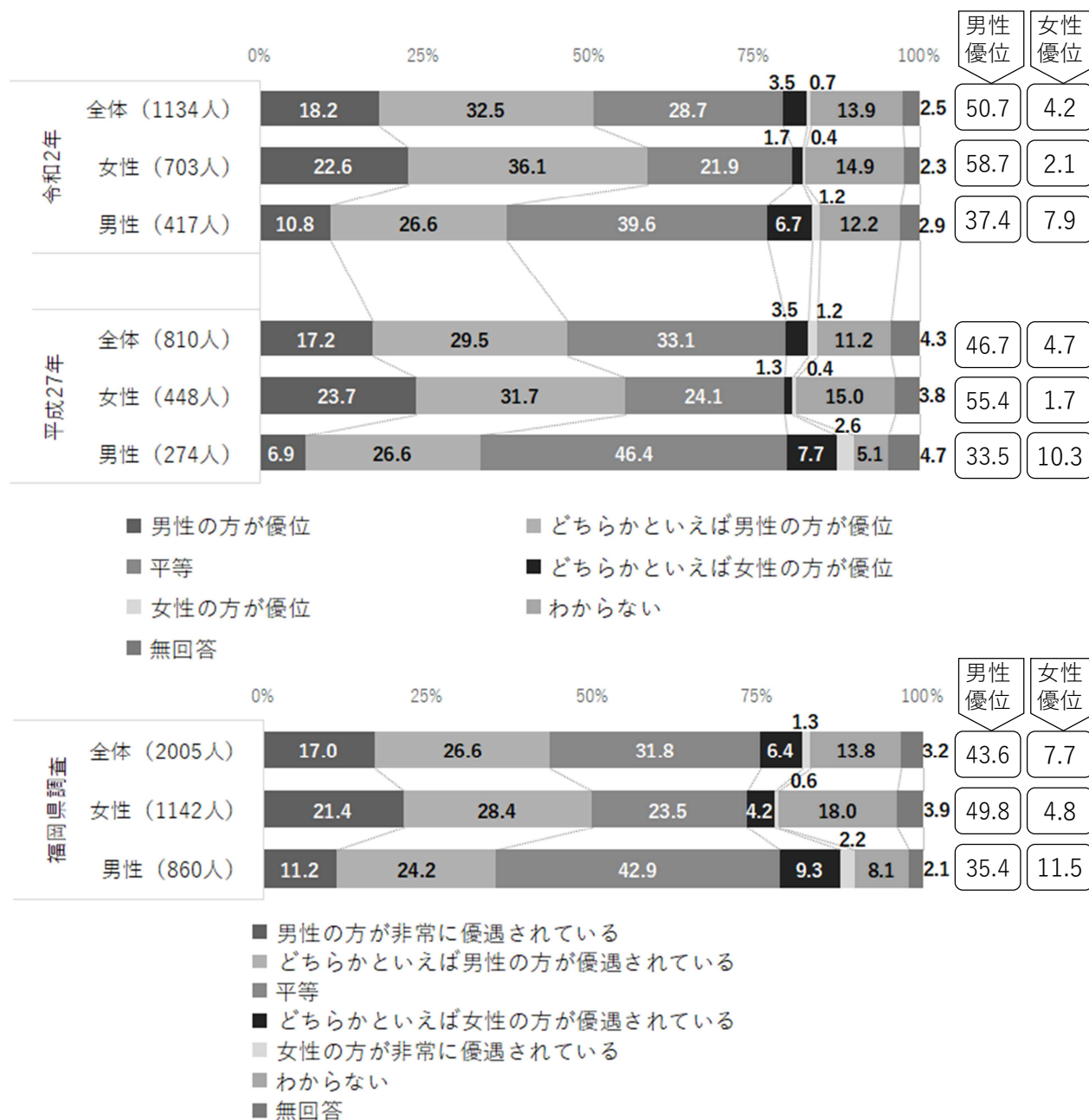
性別にみると、女性では「男性の方が優位」が43.5%と最も高い。『男性優位』は女性が83.3%であるのに対し男性は74.9%で、8.4ポイントの開きがある。一方で「平等」は男性が13.7%で、女性よりも7.2ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、わずかではあるが男女とも『男性優位』が増加し、「平等」が減少している。

福岡県調査と比較すると、『男性優位』は八女市の方が3.3ポイント高く、福岡県に比べて不平等感がやや強い結果となっている。

(カ) 法律や制度の上で

図 II-1-6 法律や制度の上における男女の地位の平等感[全体、性別] (前回調査・県調査比較)



「法律や制度の上で」では、「どちらかといえば男性の方が優位」が32.5%と最も高く、『男性

優位』が約半数を占める。「平等」は28.7%である。

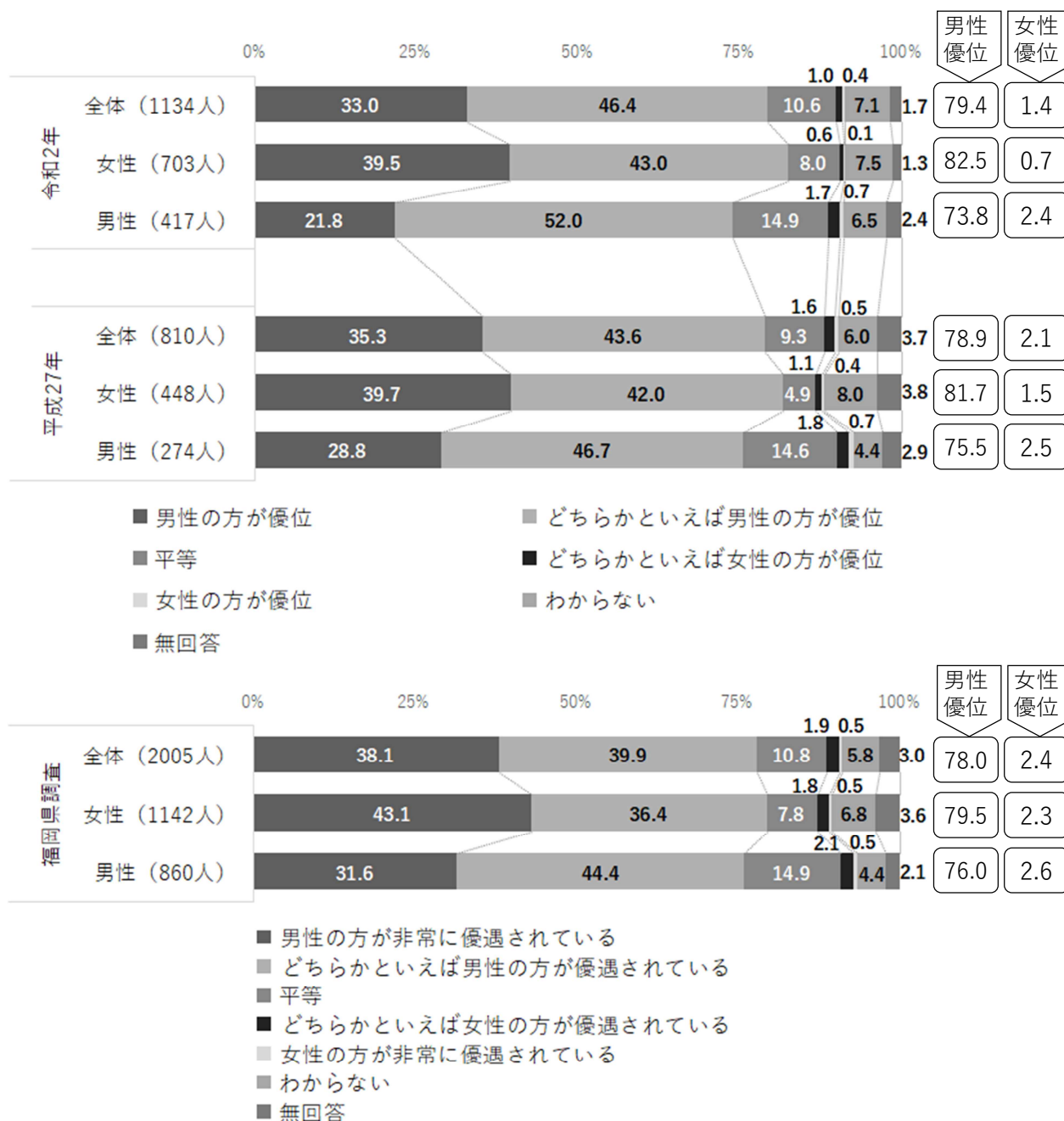
性別にみると、女性では「どちらかといえば男性の方が優位」が最も高いのに対して、男性では「平等」が39.6%と最も高い。『男性優位』が女性は58.7%であるのに対して男性は37.4%であり、21.3ポイントの開きがある。一方で「平等」は男性の方が17.7ポイント高く、男女間の認識の差が大きくなっている。

前回調査と比較すると、『男性優位』が4.0ポイント増加し、「平等」が4.4ポイント減少しており、不平等感がやや強まっている。

福岡県調査と比較すると、『男性優位』は八女市の方が7.1ポイント高く、県全体と比べて不平等感が高くなっている。

(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど

図II-1-7 社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等感[全体、性別] (前回調査・県調査比較)



「社会通念・慣習・しきたりなど」では、「どちらかといえば男性の方が優位」が46.4%と最も高く、『男性優位』は79.4%にのぼる。「平等」は10.6%であり、不平等感が強い分野である。

性別にみると、『男性優位』は女性が82.5%であるのに対して男性は73.8%であり、8.7ポイントの開きがある。一方で「平等」は男性の方が6.9ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、ほとんど変化は見られないが、全体では『男性優位』がわずかに増加している。

福岡県調査と比較すると、『男性優位』について、女性では八女市が福岡県よりも高いのに対し、男性では逆に八女市が福岡県よりも低くなっている。